

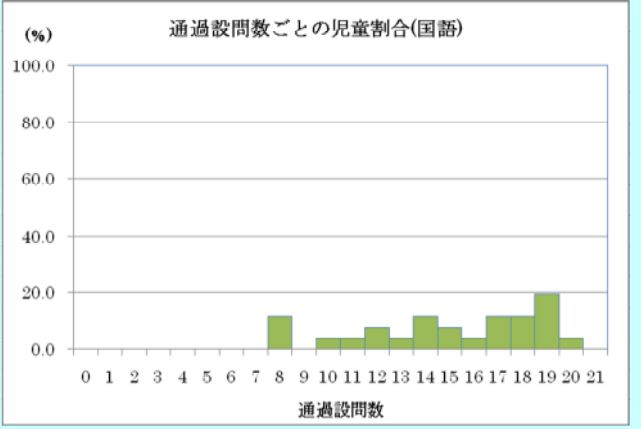
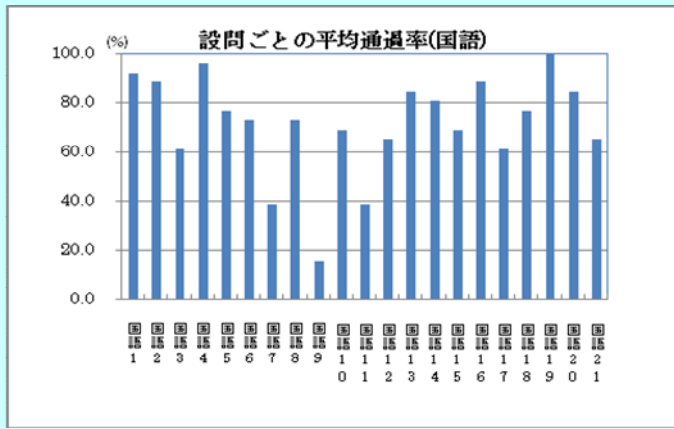
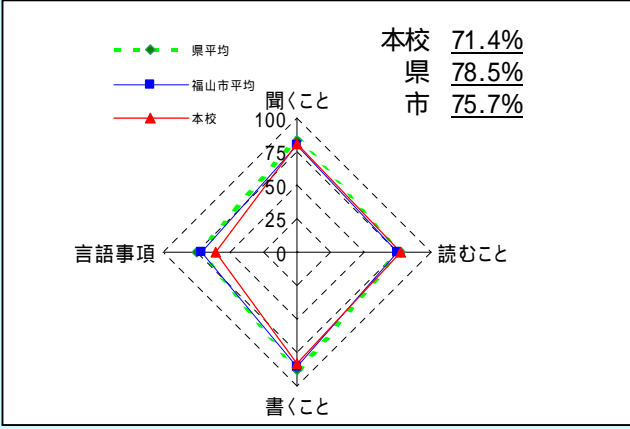
**昨年度課題**

主語・述語を的確にとらえる力をつけること。  
 主語・述語を意識して、整った文章を書いたり、分かりやすく話したりする力をつけること。

**昨年度課題を受けて取組んだ具体的事項**

読み取りの学習では、「だれが」「どうした」のかを読み取っていく中で、「主語」「述語」に対する意識付けをした。また、「主語」「述語」といった言葉をしっかり使って意味理解を図った。  
 5W1Hを意識した文の書き方を指導した。  
 《本年度の目標値 言語事項に関する問題の正答率を80%以上にする。》

**「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率**



**重点課題 「基礎・基本」定着状況調査**

「出しました」という述語に対する主語はどれかを選ぶ問題の正答率が最も低い。「おじさんに」を選んだ児童は23%、「手紙を」を選んだ児童は57%である。「～は」「～が」にあたるのが主語だと理解していないことが要因と考えられる。「体力に自身がある。」の傍線部の漢字を正しく直せていた児童は38.5%である。「自心」とした児童は19%、「自身」は15%、「自真」は7%だった。正確に漢字を覚えていないこと、言葉の意味をきちんと理解して文章の中で使えていないことが要因と考えられる。

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業・家庭学習)**

【国語科】  
 読み取りの学習では、「だれが」「どうした」のかを読み取っていく中で、「主語」「述語」に対する意識付けをする。「主語」「述語」の言葉をしっかり使って意味理解を図る。  
 「漢字の広場」で短文作り(主語・述語・5W1H)の指導をする。  
 習得する部分と活用する部分をはっきりさせて指導する。

【全校・他教科等】  
 各学年の言語活動の系統性をしっかりつかみ、話し言葉・文章表現の中で日常的に指導する。各教科で学習のまとめをするときに、学習した言語事項を活用させる。言葉にこだわらせるようにするために、各教科で辞典を引く習慣をつけさせる。

**取組みの検証**

時期	2月	目標値	言語事項に関する問題の正答率を70%以上にする。
方法	CRTテスト		

**来年度の目標値**

平均を80%以上にする。  
 言語事項に関する問題の正答率を70%以上にする。

# 授業改善シート〔算数〕

校番(62) 福山市立 大谷台小学校

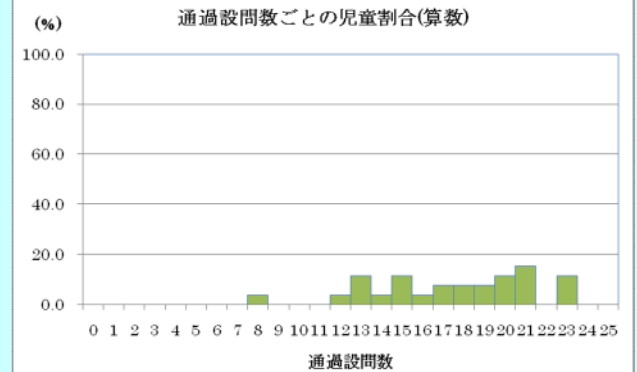
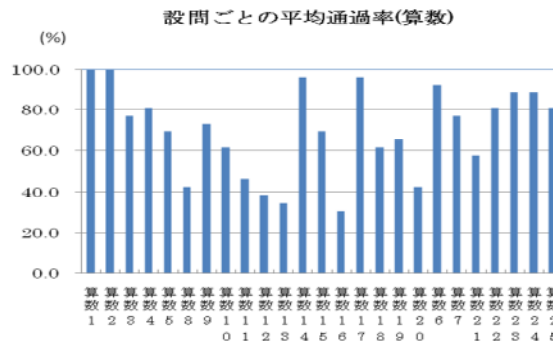
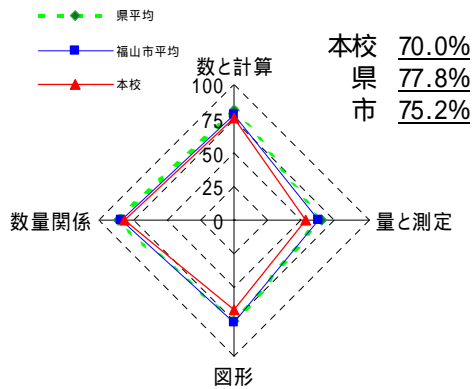
## 昨年度課題

伴って変わる数量の関係を式で表す力をつけること。  
事象を表している式の意味を読み取る力をつけること。

## 昨年度課題を受けて取組んだ具体的事項

表から読み取ったことを式を使って表現させるようにした。  
立式の根拠を説明させたり、式から数量の関係を読み取らせるようにした。  
《本年度の目標値 課題に取り上げた1問の正答率を50%以上にする。》

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率



## 重点課題 「基礎・基本」定着状況調査

「図形の面積」の正答率が低い。その要因として、長方形のたてと横の長さが書かれていない数値を正確に出せていないこと、図形を分割して考えているが正しく式に表せていないこと、考え方は合っているが、途中で計算間違いをして式の数値が違っていることなどが要因として挙げられる。  
「算数の教科書の表紙の面積の単位を選ぶ問題」の正答率が低い。誤答は「mm」(31%) 「cm」(12%) 「mm<sup>2</sup>」(8%) 「g」(4%) 「km<sup>2</sup>」(4%) 「m」(4%) 無回答(4%) だった。単位と広さのイメージが結びついていない。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業・家庭学習)

### 【算数科】

課題に対する見通しをもたせたり、「まず」「次に」等の言葉を使わせたりして、自分の考えを筋道立てて説明させる。  
授業の中で、算数的活動を取り入れる場面を増やす。  
多くの情報の中から、問題解決に必要な条件(言葉や数値など)を選択する力をつける。

### 【全校・他教科等】

生活の中で、単位を意識して使わせていく。また、面積や体積については、実際の量がわかるように、実物大を見せたり、持たせて体感させたりする。  
ナンバリングなど言語技術を取り入れた発表をさせる。

## 取組みの検証

時期	2月	目標値	「図形の面積」の問題の正答率を60%以上にする。
方法	CRTテスト		

## 来年度の目標値

平均を80%以上にする。  
「量と測定」の問題の正答率を60%以上にする。